



Red Hat Subscription Management 2022

Red Hat Enterprise Linux における Subscription Manager のトラブルシューティング

Red Hat Subscription Manager の問題に対応するために

Red Hat Subscription Management 2022 Red Hat Enterprise Linux における Subscription Manager のトラブルシューティング

Red Hat Subscription Manager の問題に対応するために

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Troubleshooting_Subscription_Manager_in_Red_Hat_Enterprise_Linux.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat Enterprise Linux の subscription-manager ツールで問題のトラブルシューティングを行います。

目次

1. RED HAT ENTERPRISE LINUX 8	2
1.1. Red Hat サブスクリプション管理への登録ができない	2
1.1.1. カスタマーポータルでのアクティベーションキーの作成	2
1.1.2. カスタマーポータルにアクティベーションキーの登録	2
1.2. subscription-manager が無効なサブスクリプションを報告	3
2. RED HAT ENTERPRISE LINUX 7	3
2.1. 証明書の問題で登録できない	3
3. RED HAT ENTERPRISE LINUX 6	4
3.1. Yum 更新は通信を確立できない	4
3.2. 優先する OS のリリースを手動で設定	4
4. RED HAT ENTERPRISE LINUX 5	5
4.1. ゲストファクトが UUID が不明であると表示	5

1. RED HAT ENTERPRISE LINUX 8

1.1. Red Hat サブスクリプション管理への登録ができない

認証情報がカスタマーポータルで機能していても、Kickstart セットアップと Red Hat Subscription Manager の両方でエラーメッセージ HTTP エラー (401 - Unauthorized): Invalid user credentials というエラーで登録が失敗する可能性があります。これは、ダッシュなどの特殊文字を含むパスワードで発生することがあります。

先に進む前に、以下を確認してください。

- カスタマーポータルの正しい認証情報と、これらの認証情報により組織レベルのアクセスが可能であること
- お客様の E メールではなく、カスタマーポータルへのログイン ID

ただし、すべての情報が正しいにもかかわらず動作しない場合は、カスタマーポータルでアクティベーションキーを作成し、そのアクティベーションキーを subscription-manager コマンドラインインターフェイスで使用することができます。

1.1.1. カスタマーポータルでのアクティベーションキーの作成

手順

1. カスタマーポータルで、[Activation Keys](#) をクリックします。
2. **New** をクリックします。
3. キーに対して一意の **Name** を入力してください。この値は後で必要になります。
4. **Service Level** と **Auto Attach** 環境設定を選択します。
5. アクティベーションキーに追加するサブスクリプションを選択します。ページを閉じることなく、検索バーを使用して検索結果を絞り込むことができます。
6. **Create** をクリックします。

成功すると、カスタマーポータルにアクティベーションキーが作成されたことを示すバナーが表示されます。また、バナーの下には組織 ID が表示されます。

アクティベーションキーを作成すると、Subscription Manager が有効なカスタマーポータル ID をキックバックした場合でも、システムを登録できるようになります。

1.1.2. カスタマーポータルにアクティベーションキーの登録

前提条件

- 組織 ID
- アクティベーションキー名

手順

1. ターミナルウィンドウを開きます。
2. コマンドを入力します。

```
# subscription-manager --org=ORG-ID--activationkey=NAME
```

成功すると、subscription-manager は出力を表示します。

```
The system has been registered with ID: 00000000-0000-0000-000000000000
The registered system name is: system-name
Installed Product Current Status:
Product Name: Red Hat Enterprise Linux for x86_64
Status: Not Subscribed
```

登録が完了したら、attach コマンドを使ってサブスクリプションを添付することも忘れないでください。

1.2. subscription-manager が無効なサブスクリプションを報告

Subscription Manager に対してシステムをリフレッシュして再登録すると、subscription-manager ステータスを使用してシステムのステータスを確認したときに無効なサブスクリプションと表示される問題が解決する場合があります。

手順

1. まず、サブスクリプションを更新します。

```
# subscription-manager refresh
# subscription-manager attach --auto
# subscription-manager status
```

2. サブスクリプションがまだ無効な場合は、システムから登録を解除し、再度登録してください。登録を解除するには、コマンドを入力します。

```
# subscription-manager remove --all
# subscription-manager unregister
# subscription-manager clean
```

3. システムを再登録するには、コマンドを入力します。

```
# subscription-manager register
# subscription-manager attach --auto
```

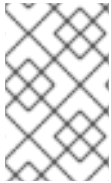
2. RED HAT ENTERPRISE LINUX 7

2.1. 証明書の問題で登録できない

subscription-manager で、CA certificate for subscription service has not been installed エラーが発生する場合は、システム上の証明書と subscription-manager 用の証明書が一致していません。このエラーを解決するには、yum と subscription-manager が Red Hat のサブスクリプションサービスと CDN

(Content Delivery Network) にアクセスできるように、送信ネットワークのファイアウォールで以下のホスト名とポートを許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。

- subscription.rhn.redhat.com:443 [https] および subscription.rhsm.redhat.com:443 [https]
- cdn.redhat.com:443 [https]
- *.akamaiedge.net:443 [https] または *.akamaitechnologies.com:443 [https]



注記

特定の IP アドレスは変更される可能性があるため、特定の IP アドレスを使用することは推奨されません。しかし、[Red Hat サブスクリプション管理のための公開 CIDR リストの実行リスト](#) があります。

3. RED HAT ENTERPRISE LINUX 6

3.1. Yum 更新は通信を確立できない

Red Hat は CDN (Content Delivery Network) を使用して yum で更新を配布しています。yum でのトラブルシューティングに問題がある場合、[Errno 14] problem making ssl connection と表示されることがあります。正しい証明書で通信が正しく確立されていません。エラーを解決するために

手順

1. プロキシが SSL 証明書を変更していないことを確認します。プロキシが SSL 通信を辞めるように設定されていることがあります。
2. システムの UUID が、カスタマーポータルに表示されているものと一致していることを確認します。システムの UUID を確認するには、次のように入力します。

```
# openssl x509 -in /etc/pki/consumer/cert.pem -noout -text | grep 'Subject: CN'
```

3. UUID が一致しない場合は、システムからのサブスクリプションデータを更新します。

```
# subscription-manager refresh --force
# subscription-manager attach --auto
```

4. Red Hat Subscription Manager で HTTP プロキシを使用している場合には、プロキシ設定は /etc/rhsm/rhsm.conf(/etc/yum.conf ではない) に記録する必要があります。
5. システムが Red Hat の標準的な curl パッケージを使用しているかどうかを確認します。

3.2. 優先する OS のリリースを手動で設定

Red Hat Enterprise Linux 6.3 以降、Red Hat Subscription Manager はシステムの自動更新を制限するのに使用する優先オペレーティングシステムのバージョンを設定することができました。これは、サブスクリプションの自動アタッチに使用するのに設定できるいくつかの環境設定のうちの1つです。ただし、古いバージョンの Red Hat Enterprise Linux では、Red Hat Subscription Manager を通じて優先オペレーティングシステムを設定することはできません。

Red Hat Enterprise Linux 6.2 では、yum の設定を編集することで、システムを特定の OS バージョンに制限することができます。たとえば、yum のアップデートを 6.2 バージョンのパッケージに限定する場合などです。


```
[root@server ~]# echo 6.2 > /etc/yum/vars/releasever
```

4. RED HAT ENTERPRISE LINUX 5

4.1. ゲストファクトが **UUID** が不明であると表示

仮想ゲストの場合、Subscription Manager デーモンは `dmidecode` を使用してシステム管理 BIOS (SMBIOS) の値を読み取り、これを使用してゲストの UUID を取得します。64 ビットの Intel アーキテクチャーでは、SMBIOS 情報は Intel ファームウェアによって制御され、読み取り専用のバイナリーエントリーに保存されます。そのため、UUID を取得したり、新たに読み取り可能な UUID を設定することはできません。

ゲストの UUID は読めないため、ゲストシステムで `facts` コマンドを実行すると、システムの `virt.facts` ファイルに `Unknown` という値が表示されます (`virt.uuid:Unknown`)。これは、ゲストがホストマシンとの関連性を持たないため、一部のサブスクリプションを継承しないことを意味します。

Subscription Manager で使用されるファクトを手動で編集して UUID を追加できます。

手順

1. ゲストネームまたはゲスト ID を取得します。
2. バーチャルホスト上で、`virsh` を使用してゲストの UUID を取得します。たとえば、`rhel5server_virt1` という名前のゲストの場合は、以下のようになります。

```
virsh domuuid rhel5server_virt1
```

3. ゲストでは、ファクトファイルを手動で作成します。

```
vim /etc/rhsm/facts/virt.facts
```

4. 指定された UUID を含む行を追加します。

```
{  
  "virt.uuid": "$VIRSH_UUID"  
}
```